

200カイリ水域内漁業資源総合調査

山本隆司、喜屋武俊彦、川崎一男、金城清昭
海老沢明彦、兼浜安信、久貝一成

本調査は国庫委託を受けて昭和52年から継続実施しており、調査結果は所定の様式で水産庁に報告し、電算処理をおこなう。

1 目的および内容

我が国 200カイリ漁業専管水域の設定に伴い、当水域内における漁業資源を科学的根拠に基づいて資源評価し、漁獲可能量等の推定に必要な関係資料を収集するとともに、漁獲物の生物学的調査をおこない海況予報資料とする。そのために本県では最重要漁業である底魚類を対象とする深海一本釣漁業、深海底たて延縄漁業、と外国の専管水域に相対する尖閣諸島に漁揚を持つ宮古のひき縄漁業を標本船対象漁業に設定し、報告を受けた。また深海たて延縄のフェダイ類、イカ釣のトビイカの漁体測定、漁海況予報事業の定線を使って卵稚仔調査、関連調査として県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協の底魚類、トビイカの水揚量調査を実施した。

詳細については次報で報告する。